

海洋プラスチックごみ(廃プラ)
2050年までにゼロに

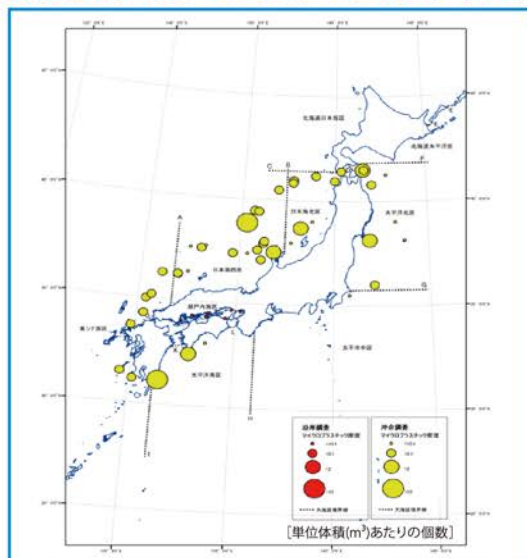
—G20「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」—

米トランプ大統領の電撃的な韓国と北朝鮮の非武装地区での金正恩委員長との面会という極めてハプニング色の強い結果に終わった大阪での20カ国・地域首脳会議(G20大阪サミット)であったが、開催期間の最終日、2019年6月29日(土)には、今後の地球環境を考えるうえで重要な合意がなされた。

国際的に問題となっている海洋プラスチックごみ(廃プラ)に関して、2050年までにゼロにする目標を導入することで一致したのである。閉幕後の議長会見で安倍晋三首相が明らかにした。首相はこの決議「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」とし、G20でリードしつつ、他の国にも賛同を呼びかけていく考えを示した。

海洋プラスチックごみ(廃プラ)問題は、ここ数年、様々な情報番組やニュースでも取り上げられ、スターバックスのプラスチック製ストロー廃止など話題を呼んでいる。廃プラは毎年少なくとも全世界で800～900万トン近くが海に流出しており、海洋生物や地球環境への深刻な影響が懸念される。

日本周辺のマイクロプラスチックの分布 (H26)



出典：環境省発表「海洋ごみとマイクロプラスチックに関する環境省の取組(2016年12月10日)」



特に世界各国からの廃プラの受け入れ先であった中国が2017年末に輸入制限を行い、次いで受け入れ先と期待された東南アジア諸国も2018年に輸入制限を行ったことから、廃プラは行き場を失った。

特に廃プラが、5mm以下の「マイクロプラスチック」という微小なサイズとなり、様々な魚介類の体内に蓄積され、食用として捕獲された魚の内臓にも高い比率で蓄積されており、それを食することで人体にも摂りこまれている危険性も指摘されている。

2016年12月10日に環境省が発表した「海洋ごみとマイクロプラスチックに関する環境省の取組」という書類によると、同年1月にスイスのダボスで開催された「世界経済フォーラム年次総会(通称ダボス会議)2016」では、海洋ごみに関する報告書が発表された。

その概要は、

- 1) 世界のプラスチックの生産量は1964年～2014年の50年で20倍以上に急増(1,500万→3億1,100万t)。今後20年間でさらに倍増する見込み
- 2) 毎年少なくとも800万t分のプラスチックが海に流出
- 3) 海のプラスチックの量は、2050年までには魚の量を上回る計算(重量ベース)
- 4) プラスチック容器のリサイクル率は14%(紙:58%、鉄鋼の70～90%)
- 5) プラスチックのリサイクルを促進し、海など自然界への流出を防ぐ対策の強化が急務だと指摘

これらの経緯を受けての今回の「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が発表されたわけである。今、全世界をあげて取り組むべき、喫緊の課題であるとも言える。

【参考】
海洋プラごみ「2050年ゼロ」 G20首脳が合意
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO46756940Z20C19A6MM0000/>

2050年には海のプラスチックの量が魚を超える!?
<https://business.nikkei.com/atcl/report/15/227278/060700126/>

特集：どうする?世界のプラスチック
環境意識の高まりを背景に相次ぐ規制導入
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2019/0101/9759e03460adb72e.html>

美楽からの一言

地球環境問題は、全世界レベルで協力すべき問題である。一国の利益を優先させると手痛いしっぺ返しを食うこととなるだろう。

世界が協力し合って、真剣に取り組んでほしいものである。